

## 学校再開にあたって

昨年度の3月3日から突然の臨時休校となりましたが、新年度からは学校再開に向けて、4月8日には令和2年度の始業式と入学式を行いました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、通常とは異なる形の実施ではありましたが、その日から今年度の教育活動がゆっくりとではあっても、始まるはずでした。ところが、実際には9日・10日と2日間登校しただけで、長期に渡る臨時休校が再び始まってしまいました。

新しい制服に身を包み、高校生活に期待を抱いていた1年生、学校生活や部活動で先輩と呼ばれる立場になり、後輩に何を教えていこうかと楽しみにしていた2年生、高校生活最後の年を悔いの残らない過ごし方をしようと決意していた3年生、そんなみなさんに対して、休校が長期化してしまったことを改めて申し訳ないという気持ちでいます。

行動が制限され自宅中心の生活を通じて、生徒のみなさんはどのようなことを考えたのでしょうか。誰もが経験したことのない未知のウイルス感染症によるパンデミックで、世界中の状況が一変しました。歴史や古典の授業の中で、自然災害や戦い等によって先人達の人生観や価値観は大きく揺らぎ、変化したことを学んできたと思います。そのような大きな出来事に、今、私たちは遭遇していることになるのだと思います。生徒のみなさんの中には、これまでの世界観が変化した人もいるのではないのでしょうか。

インターハイなど多くの大会が中止となりました。高校入学以来2年間部活動に取り組み、練習を重ねてきた3年生にとって、大きな目標が消え去ったこととなります。それぞれの競技に青春をかけてきた生徒のみなさんやその子どもを支え一生懸命応援してくださっていた保護者の方々の落胆、失意はいかばかりかと思えます。今すぐに次の目標を見つけることは難しいかもしれませんが、昔から「明けない夜はない。日はまた昇る」という言葉があります。しばらく立ち止まる時間は必要であっても、前を向いて歩いて行ってくれることを願っています。

5月21日から分散登校を開始し、6月1日から学校を再開することになりました。しかし、新型コロナウイルス感染症が完全に収束したわけではありませんので、感染リスクに十分配慮した上での再開となります。様々なところで言われている「新たな行動様式」を取り入れ、咳エチケットや手洗いはもちろんのこと、接触感染、飛沫感染のリスクを最小化し、互いに濃厚接触者にならないような行動変容を学校生活の中で実践しなければなりません。

本校の教職員は、臨時休校期間中も生徒のみなさんにメッセージを送り続け、みなさんの様子を見守り続けてきました。感染への恐れや学習・進路に関わる不安など、ストレスを感じる日々が続くかもしれませんが、学校という一つの場所で共に過ごし、みなさんの不安な気持ちを直接聞いて、全力で支えていきます。

保護者のみなさま、このような社会状況の中、大切なお子様を学校に送り出されることに大きな不安を感じておられることだと思います。感染リスクに対する配慮についても、十分に納得いただけるものではないかもしれませんが、しかし、文部科学省が「学校教育が、協働的な学び合いの中で行われる特質をもつことに鑑み、学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進めていくことが大切である」と示しておりますように、集団での生活を通じての人間力の育成は、オンライン授業等では代替できないものでございます。どうか、学校教育の在り方に御理解・御協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。